

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年5月28日（木）

2 確認箇所

- ・ Eタンクエリア（図1）
- ・ モニタリングポストNO. 3（図1）

3 確認項目

- （1）フランジ型タンクの解体作業の状況
- （2）高警報発生事象を踏まえたモニタリングポストNO. 3の状況

4 確認結果の概要

（1）フランジ型タンクの解体作業の状況

東京電力では、Eタンクエリアにおいてフランジ型タンクの解体作業を進めており、令和6年7月までに全49基中48基の解体が完了している。残る1基のD1タンクについても、タンク内のスラッジ等の回収及びタンク内壁の除染が終了し、解体作業が進められていることから、今回、その状況を確認した。（前回確認日：令和8年3月25日）

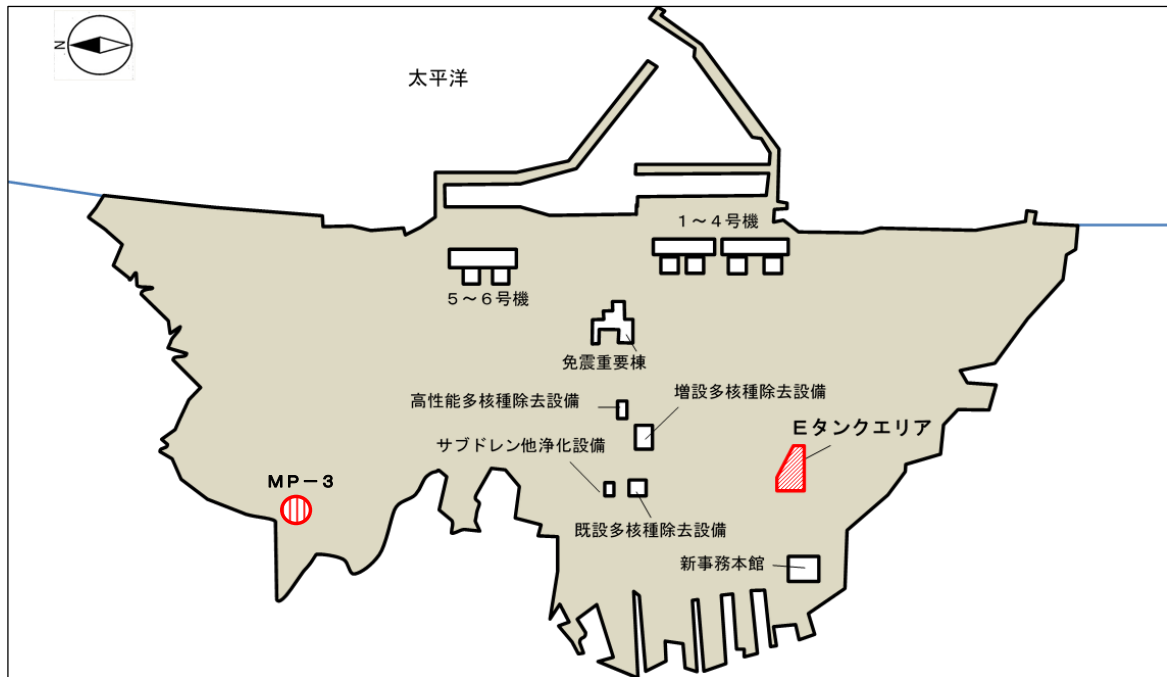
- ・現場確認時、D1タンクの解体作業は行われていなかった。なお、天頂部まで全4段あったフランジ型タンク外壁部は、3段目までの解体が終了し、底部1段を残すのみとなっていた。（写真1）
- ・解体されたタンクの部材は、ヤード内に整理整頓された状態で保管されていたほか、解体工事中のタンクについては、タンク上部に蓋が設置されていた。（写真2）
- ・確認した範囲において、タンクの解体現場やその周辺に異常等は認められなかった。

（2）高警報発生事象を踏まえたモニタリングポストNO. 3の状況

令和8年5月28日10時10分、東京電力からモニタリングポストNO. 3（以下「MP-3」という。）において、線量指示値が $2\mu\text{Sv/h}$ を超えたため警報が発報し、県に公表区分Cとして通報があったことを受け、今回、現地確認を実施した。なお、その後の東京電力による確認の結果、測定値は平常値に戻り、電氣的なノイズによる変動が原因であるとされた。

- ・現場確認時、モニタリングポストの外観に異常は認められず、周辺においてモニタリングポストの線量に影響を与えるような作業は行われていなかった。（写真3）
- ・MP-3内に設置されている可搬型モニタリングポストの表示値は $0.6\mu\text{Sv/h}$ であったほか、新事務本館内のモニタリングポストの表示モ

- ニターを確認したところ13時過ぎの時点で $0.4 \mu\text{Sv/h}$ 程度であり、平常時と同程度であることを確認した。（写真4）
- ・なお、MP-3の周辺で空間線量率の測定を実施したところ、 $0.3 \mu\text{Sv/h} \sim 1.2 \mu\text{Sv/h}$ の範囲であった。（写真5）



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



（写真1-1）フランジ型D1タンクの全景 ※令和8年3月25日撮影



（写真1-2）今回確認時の全景①



(写真 1－3) 今回確認時の全景②



(写真 1－4) 今回確認時の全景③



(写真 2－1) タンクヤード内の
タンク解体部材の整理状況①



(写真 2－2) タンクヤード内の
タンク解体部材の整理状況②



(写真 2－3) タンク第 1 段目上部の
蓋の設置状況①



(写真 2－4) タンク第 1 段目上部の
蓋の設置状況②



(写真 3) MP－3 の外観



(写真 4) 可搬型モニタリングポスト
表示値 (表示値: $0.6 \mu\text{Sv/h}$)



(写真5-1) MP-3西側での
測定値(指示値: $0.3 \mu\text{Sv/h}$)



(写真5-2) MP-3南側での
測定値(指示値: $1.22 \mu\text{Sv/h}$)



(写真5-3) MP-3北側での
測定値(指示値: $1.15 \mu\text{Sv/h}$)

5 プラント関連パラメータ等確認

確認したデータについて、異常値は確認されなかった。